

ふるさと見て歩き

第9回

吉田八幡神社と三浦杉

旧美和地区には樹齢八百年といわれている三浦杉があります。今回はこの三浦杉とその所在する吉田八幡神社についてご紹介いたします。

静謐な

巨樹の森

小田野に鎮座する吉田八幡神社。鬱蒼と茂る

巨木群の中でひとときわ目を引く二株の巨樹は「三浦杉」と呼ばれ、神社の御神木となっています。昭和六年に県指定の天然記念物となりました。幹の周囲はおよそ十メートルもあり、屈曲もなく真っ直ぐに天に伸びた姿には圧倒されます。

伝説によれば、久寿二（一一五五）年、相模国（神奈川県）の三浦大介義明が、九尾の狐退治の命を受けて下野国（栃木県）那須野ヶ原に赴く途中、この神社に参拝し、「首尾よく退治できた暁にはこの杉天にそびえよ」と祈願したと伝えられています。

三浦大介が退治した九尾の狐は、その後石となり毒気をはき続けたと言われ、那須の殺生石として有名です。この杉は昔「鎌倉杉」と呼ばれていたよ

◀八百年の風格を漂わせる三浦杉



子掛けといい、小田野上郷から馬頭の大那地の間であるという。

②三浦大介が合戦に赴く際、虚空蔵尊像と稲荷の像を背負って上檜沢を通りかかったところ急病になり、箱地の平塚家の厄介になった。そこで看護を受け、回復したが、尊像が重いので出立する際尊像を置いていった。平塚家では長い

間その像を長持に入れて置いたが、あるとき狐が出て、長持の中の稲荷を出して祀るよう人の口を借りて言ったという。それは平塚家の氏神として祭られている。

うですが、水戸藩の二代藩主光圀のときに三浦大介の狐退治の故事を聞き「三浦杉」と改称したといわれています。また、それまで「八幡神社」という名称であったのを光圀が「吉田神社」と改めましたが、昭和十二（一九三七）年、氏子らの願によって旧名に復し、「吉田八幡神社」という現在の社名となりました。

狐退治は見事に成功し、三浦大介の願いどおり現在もこの杉は天に向かって伸び続けているのです。

三浦大介義明と狐をめぐる伝説

小田野地区には、三浦大介義明に関する言い伝えが今でも語り継がれています。

①三浦大介が狐退治に行った帰り、再び小田野の地に立ち寄り冑を脱ぐとその冑が石になり、今はカブズ石と呼ばれている。また彼が烏帽子を脱いで掛けたところは烏帽

（『美和村史』、昭和六〇年度美和寿大文学編
「美和村の昔ばなしと伝説」から引用、編集）
他にもいくつかの話が言い伝えとして残されています。遠く相模国からきた三浦大介の伝説がこのように数多く語り継がれていることは、小田野の人々の三浦大介への愛着の深さのあらわれと言えるのではないのでしょうか。彼が晩年に自分の姿を刻んだといわれる彫像は、三浦神社に納められており、小田野の地を見守り続けています。

※現在は枝の落下などの危険性があるため三浦杉の根本までは入れません。遥拝所からでも十分に杉や拝殿を見ることができしますので、安全のため神社側の指示に従ってご見学ください。（歴史民俗資料館）

◀吉田八幡神社拝殿

